

今年度の『ブレイディ』が 神様の恵みの御手の中で守られ たくさんの方々のお心とお祈りによって支えられ 全ての保護者の皆様のご理解とご協力を頂きまして、無事に開催できましたことを 心より感謝申し上げます。特に、乳児クラス子ども達と保護者の皆様を始め、楽しみにされていたにもかかわらず、参加が叶わなかった全クラスの各ご家庭や様々な関係者の方々に於かれましては、本当に申し訳なく今も無念の思いでいっぱいです。それでも、私共の想いを快くお受けくださり 開催実現のため お力添えを頂きましたこと厚く御礼申し上げます。当日は、皆様の温かなお心と 乳児クラスの小さな仲間たちの笑顔と祈りが 会場の中いっばいに溢れていました。コロナ禍の中での、今年度初めての行事でしたが、こうして終わってみて 今 改めて 痛感させられているのは “子どもは どんな時も 変わらない” ということです。たとえ 状況がどんな風に変わろうとも どこに在っても 子ども達は いつもいつでも100% 前向きです。ありのままを あるがままに受け入れられる柔軟さと素直さ、一瞬一瞬を 全身全霊で楽しみながら周りを笑顔に変えていく素晴らしい力、本質に立ち返ることができました。今回の経験は、今後のつのぶえにとって私自身にとって大きな確信となり、新たな勇気と希望を与えられました。「これから先 どのようなことが起こっても 私たち大人が決して諦めず、皆で心をついに祈り ひたすら前を見て 子どもの心を守ることを第一に 安心な環境の保障に努める最善を尽くそう」と、一同 想いを強くしています。

さて、今 アメリカでは『大統領選』に目が離せない大事な時ですが、もしかしたら日本国内では それ以上に話題沸騰で 注目が集まっているのは、いまや 社会現象ともなっている『鬼滅の刃』のニュースかもしれません。つのぶえでも 子ども達の人気は 急上昇中です。皆さんは ご覧になりましたか？ 先月から 公開された映画は、日本の映画史上の記録を あっという間に塗り替えているそうですね。コロナの心配さえ無ければ 私たち職員も きっと早速 映画館へ出かけていたと思います。が 残念ながらまだ実際の映像やストーリーを味わえていません。私自身は、確か昨年の末頃に 友達からの熱心な勧めと 教え子達の登場人物についての熱い“トーク”に押され 映像に初めて触れたのが きっかけでした。最初の印象は アニメとしての背景画の細かさや 迫力、また 日本の大正時代のお話だということと 日本語本来の美しさに惹かれました。・・・が。人間が鬼に食べられてしまうというストーリーを、予め聞いてはいたものの 実際に動画の描写や表現を目にした時には 震えてしまいました。思わず目を覆うほど 怖かったです。けれども、その鬼たちも 元々は 人間であったこと、そのひとりひとりにちゃんと人生があり 一生懸命生きていたことを知らされた時、胸を打たれました。そして 鬼にされてしまった妹を 再び人間に戻すため、命がけで鬼と闘い 退治する 主人公“炭治郎”を始めとする“鬼殺隊”のメンバーひとりひとりの 人としての想いや言葉、生き方に共感できて涙する時もありました。気がつくといつのまにか アニメの主題歌を 子ども達と歌えるようになり、今では 教え子達の“鬼滅トーク”にも 思わず仲間入りして すっかり 夢中になっている自分に驚きました。キャラクターそれぞれの個性も ユニークではっきりしています。どの人物もみな 愛すべき“人間くささ”のようなものが感じられ、そんなところも魅了された要素の一つです。

中でも 私は、黄色い髪^{あがつま}の毛をした『我妻 善逸^{ぜんいつ}』が大好きです。善逸の 普段の姿は 女の子が大好きで 弱虫で 泣き虫、闘うことが大嫌いの“ヘタレ”な男の子です。でも恐怖で失神して深い眠りの中にいる時だけは 何故か 人が変わったように強くなり それはそれはカッコよく鬼を倒します。ただ 幾つもの技を持つ他のメンバーとは 異なり「一の型」が唯一の技です。善逸には人生を変えられた“じいちゃん”と呼ぶ師匠との出会いがあります 修行を重ねても一つしか習得できないヘタレの善逸に、じいちゃんの温かな言葉がとても印象的で心に沁みます。「善逸、おまえはそれでいい。一つのことしかできないなら、それを極め抜け。泣いてもいい。逃げてもいい。ただ 諦めるな。」この言葉を胸に、最後まで自分を信じてくれた人の心（愛）に応えるため 自分を奮い立たせ 人の役に立つため 鬼殺隊として頑張りながら、炭治郎や仲間との友情を育み合う 真摯な生き方にも感動します。善逸のあるがままを受け入れるじいちゃん言葉は、神様の御心に通じる深い愛を感じます。『鬼滅の刃』には 今 人々が求めている人間の本質に響き合うメッセージがあるのかもしれないと天に想いを馳せるこの頃です。「人の望むものは、人の変わらぬ愛である。（箴言19:21）」「神は 愛です。（Iヨハネ4:16）」（石田 記）